
改方学園の林海学校

来実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

改方学園の林海学校

【Nコード】

N9744H

【作者名】

来実

【あらすじ】

林海学校にきた平次と和葉のお話。とんでもないタコのおかげで、和葉が大変なめにあります。後半は甘めです。

(前書き)

長めですがよろしくです。

改方学園はとある県の海岸に林海学校に来ていた。

『めっちゃ綺麗やなあ、この海!』

『せやなあ!はよ泳ごっ』

騒いでいるのは和葉と美奈である。

『あ!和葉、見てみ』

『え?』

美奈が指さした先には服部平次の姿があった。

『服部くん、海パン姿めっちゃカッコエエやん!周りの女子の目エ違うもんなあ』

確かに服部は体を常に鍛えてあるだけあって、バランス良く筋肉がついており、誰が見ても格好よい体だ。

『ほんまえらい似合うてるわあ…。さすが剣道部主将や。体の鍛え方違うわ』

『それ、服部君の前でも素直に言えたらええのになあ』
美奈がにやっとする。

『そっそんなん言える訳ないやんっ』

和葉は顔を真っ赤にして否定する。

『そんなん言うると他の女にとられてまうで?』

『う…』

この時彼女達は、女子から平次に向けられている視線と同じものが、男子達から自分に向けられているコトに気づいていなかった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『なあ服部、あれ見てみ？』

『あん？』

友達、康太の指さす先には見慣れない姿の幼なじみがいた。

『……………』

『なに見とれてんじやい服部！鼻の下のびてんで！』

『なっ…ちやうわ！ただ、和葉あんなスタイルよかったっけな思てな』

『うらやましいわ、あんな可愛い幼なじみおるなんてなあ。てか付き合っとるんか？』

『ちやうわ！ただの幼なじみでしかないで。』

『そうなん？それなら俺アタックしてみよかな』

『あっあかん！』

『なんでやあ？』

康太がいたずらな顔で服部を見て笑う。平次ははめられた、と思った。その時、和葉の声が近くなってくるのにふたりは気づいた。

『はっ離してエな美奈っ』

『ええから、ええから。なあ服部くん！和葉みたって！ごつつ可愛えやろ？』

『…に、似合う？』

『…まっ馬子にも衣装、や！』

平次は真っ赤で答えていたのだが、鈍感な和葉が気づくはずがなかった。

『なんやのそれ…！期待したあたしがあほやったわ！』

『おお、ようやくと気づいたんかあほ女。』

この憎まれ口も当然照れ隠しなのだが、やはり和葉は気づかない。

『なんやてえ！？』

和葉が言い返そうとしたその時、集合がかかった。

『静かにせえ。このあとは自由に泳いでもかまへんけど、ひとつ、

ここの管理人さんからの注意事項があるんや。』

学年主任は、オホン、と喉を鳴らしてから再び口をひらいた。

『なんや、その…。今この海にはタチ悪いタコがおるそうなんや。なんでも、綺麗な足の人間みつけるとその人の足に絡み付いて、海の中ひきづりこもうとするんやて。そのタコのせいで何人か溺れとるそうや。くれぐれも…特に女子、気をつけえや！以上。解散！』
『…やって。和葉、あんた気イつけなあかんよ？和葉の足めっちゃ綺麗なんやから。』

『なに言うとなねん美奈。別にあたしの足なんか普通やん。ほな、泳ぎ行こうで！』

ふいっと平次を無視する形で和葉は平次の脇を通りすぎた。

『なんやねんあの女。気イ悪いやつちゃ。』

隣でむくれる平次を、康太は苦笑いしながらみていた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『やっぱ海はええなあ、次どのへん行こか？美奈！』

『そやな。服部君とこにでも仲直りしにいくってのはどや？』

『う…。痛い所ついてきよるなあ。』

『ほんまは、怒りすぎた思てんねんやろ？ほな、行こで？』

『う、うん…』

服部君どこやろ…と美奈は和葉に背を向けた。

『……………っ！？』

ザブンッ

『なあ和葉、服部くんこのへんにはおらんみたいや…って、あれ、和葉？どこいったん？』

和葉は必死にもがいていた。

（足になんかまとわりついとるっ…！引っ張られる力が強うて上に
上がれへん！息が…苦しい）

もしかして死ぬんやろか…

そやったら、もっと早う

平次に謝るんやったな…

『へ……いじ…』

和葉の意識は遠のいていった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『…なあ服部』

『なんや？』

『遠山さんに謝り行ったらどや？』

『…せやなあ…。今回は俺がまずかったんかもしれんし…探そか。
……ん！？』

『服部！今悲鳴聞こえんかったか！？』

『聞こえた！行くで！』

悲鳴があった方向には、人だかりができていた。

『しっかりしい和葉っ』

美奈が叫ぶ声がする。

(和葉やて!?)

『ちょっとそこどき!!』

平次は人をかきわけて

中心へ行った。

『かつ…和葉!!』

目の前には、唇が青く横たわった和葉の姿があった。『どういこうとや本田!』平次は美奈を問いただす。

『タコにやられたんや…。今、近くにいた水泳部の加奈子に引き上げてもらたんけど…和葉、目エ覚まさへんのや!』

『なんやて…!? 和葉! しっかりしい和葉!!』

(い、息しとらへん…!)

『なにボサツとしとるんや! はよ救急車呼び! 心臓止まってんのや!!』

誰かが慌てて走っていくのが見えた。

『か、和葉あ…』

美奈が泣きながら和葉の体にすがりつく。

『本田、どきい!』

『服部くん!?!』

『このまま救急車まっと思ったらほんまに和葉死んでまうやろ!!』

美奈をどかせると、平次は心臓マッサージを始めた。

『和葉！目エ、覚ましっ!』

息切れしながら和葉に呼びかける平次。マッサージを30回済ませ反射的に人工呼吸に移ろうとした時、ふと行動をとめる。

（和葉、キスした事あるんやろか…。緊急事態とはいえ、俺が和葉のファーストキス奪ってもーてええんやろか？）

という考えがよぎるが、今はそんな事を言っている場合ではないと思いいなおす。

（すまん和葉！）

平次は和葉に唇を近づけ、人工呼吸を行った。

いつもなら周りのクラスメイトは囁し立てるのだが、今はそんな状況ではない。

平次は、何度も心臓マッサージと人工呼吸を繰り返した。

和葉：頼むから目エ開けてくれ！

俺まだ和葉に言わなあかん事が残ってんねや…。

お願いやから行かんといってくれ！

俺の前からいなくならんてくれ！

和葉…！

ぴくっ

『和葉…？』

一瞬、和葉の眉が歪んだ気がした。

『…っ、ケホッゴホゴホッ！』

『か、和葉…！』

和葉が息を吹き返した。周りの緊迫していた雰囲気、一瞬で安堵したものになる。

『…あ、あたし。どないしたん？…確かタコに…』

和葉の言葉が止まる。平次が和葉を抱きしめたからだだった。クラスメイトの前だったが、平次はそんな事どうでもよかった。

『へ、へーじ？皆が見て…』

『この、ど阿呆！どんだけ心配した思てるんや！』

『…ご、ごめんな…？』

和葉が恐る恐る、平次の顔に視線をやる。

『平次？泣いとんの？』

『な、泣いてへんわボケ！』

『せやかて、涙でてるやん』

『これは、涙とちゃう！あんまお前が心配かけよるから、鼻水が逆流したんや！』

『無理あるで、その言い訳。』

和葉がくすつと笑う。

会話を聞いていたクラスメイト達は、気をきかせてその場を立ち去った。会話の続きが気になってはいたようだが。

『っさいわ! 黙ったとき!』

そう言い放つと、何の前触れもなく平次は和葉にキスした。

『…んっ…ふ……』

深く深く、まるで和葉の存在を確かめるように。

『…和葉が、好きや。』

『…遅いわ』

『なっ…?』

平次は訝しげな顔をする。

『あたしがどんだけ、その言葉待った思てるん? だいたい、キスしてから告白するやなんて、順序おかしいやろ』

和葉が笑いながら言う。

『笑うなやつ！仕方ないやんけ。さっきは理性とんでたんやから。』

『理性…？なんで？』

『…お前倒れてんのみて、心臓止まるかと思ったんやで？和葉が…消えてまうんか思たら、怖かった…。』

『平次…』

『…せやから、ツケは返してもらおうで？』

『は？』

『えらい心配かけよってに。ツケ返してもらわんと割に合わんわ』

『へい……んっ……』

にやっと笑った平次は、さっきより長く、和葉にキスした。

『…和葉は俺の事どう思てるん？まだ聞いてないで。』

『なんっ…言わんでも分かるやろ！？』

『和葉の口から聞きたいんや』

『あたしも…好きやで?』

『…さよか』

『なんなんその返事! ちょっと平次? 聞いてるん?』

ひととおり痴話喧嘩をしてからホテルに戻った二人が、クラスメイ
トから囃されたのは言うまでもない。

Fin.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9744h/>

改方学園の林海学校

2010年10月16日23時00分発行